

# 中東レポート

## シャミール「戦争内閣」と米帝の矛盾

一九九〇年七月一〇日

第 59 号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京 1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費24000円

編集後記

七月一〇日 :

16 16

目次

シャミール「戦争内閣」と米帝の矛盾 : 1

資料

・

・蜂起民族統一指導部アピール  
・イラクのクウェート侵略について

重要日誌（一九九〇年六月一一日）

は、これを逆手にとつて、「アラブ諸国が和平を実現する意志があるなら、電話をするように」と発言して、和平に動いていいのはアラブであるとやり返している。

一方、六月二〇日には、米帝ブッシュはPLOとの対話を打ち切りを宣言した。これは、PLO執行委員会が、イスラエルへの上陸作戦を「テロ行為」として非難せず、その作戦に責任を負う執行委員アブル・アッバース（通称）を執り行委員会から追放しないことに、「不满である」からと説明された。シャミール政権は、このブッシュの決定に満足を表明した。

アラブ総体、パレスチナからは、「戦争内閣」などと呼ばれるシャミール新政権は、先のベーカー発言に示されるように、米帝との間に矛盾を抱えている。それが、どのような性質のものであるのかを、今号では見ていただきたい。

は、これを逆手にとつて、「アラブ諸国が和平を実現する意志があるなら、電話をするように」と発言して、和平に動いていいのはアラブであるとやり返している。

一方、六月二〇日には、米帝ブッシュはPLOとの対話を打ち切りを宣言した。これは、PLO執行委員会が、イスラエルへの上陸作戦を「テロ行為」として非難せず、その作戦に責任を負う執行委員アブル・アッバース（通称）を執り行委員会から追放しないことに、「不满である」からと説明された。シャミール政権は、このブッシュの決定に満足を表明した。

アラブ総体、パレスチナからは、「戦争内閣」などと呼ばれるシャミール新政権は、先のベーカー発言に示されるように、米帝との間に矛盾を抱えている。それが、どのような性質のものであるのかを、今号では見ていただきたい。

### 第一 米帝とシャミール政権の矛盾

これに対して、ベーカー米国務長官は、米議会で、シャミール発言を批判し、シャミールの立場では、シャミールは和平へ動かず、米国が積極的に働きかけるべきであると主張しているのである。また、これに対してイスラエル外相ホワイト・ハウスの電話は、一一二〇一一四五

第一は、PLOに対する政策における矛盾で

ある。八九年以來、アラファト議長の「テロ放棄宣言」を機に米帝がPLOとの対話を開始してきたことがシャミール政権との最大の矛盾であった。とくに、大イスラエル主義の路線をするシャミール政権は、ことあるごとに、PLOは「テロ組織」とのキャンペーンを行って、米帝とPLOとの対話中止を要求し続けてきた。だが、対イスラエル上陸作戦を非難せず、モハメド・アッバス（通称アブル・アッバース）PLO執行委員を引責解任しないとのPLO執行委員会の立場を口実に、ブッシュが六月二〇日にPLO交渉打ち切りを決定したので、この矛盾は、解消された形になっている。

米帝は、PLOを民族解放主体として承認したうえで対話を始めたわけではなく、逆に、民族解放主體としての性格を抜き去るために、PLO憲章改訂と引き替えに交渉のレベル・アップを計るとのやさぶりをかけていた。これは、パレスチナ蜂起の政治解決の形態をめぐり、とくにパレスチナ人を代表するのが誰かという問題をめぐるものであった。米帝は、「ベーカー案において、カイロでパレスチナイスラエル直接交渉を開催する場合、パレスチナ代表に、領外からとエルサレムからのパレスチナ人を各自一名ずつ入れることを提案していた。シャミール政権は、現在エルサレムを除く領内に居住するパレスチナ人のみを交渉対象とするという点に固執してきた。

第二は、被占領地への入植をめぐる矛盾である。米帝は、ソ連系ユダヤ人移民の対イスラエルを明確にもした。

このシャミール書簡に対しても、「ベーカーは、注意深く検討させてもらっている」との談話を発表し、事実上のベーカー案拒否に対しても、國務省の電話番号を知らせたときとはうって変わった反応を示した。また、ブッシュは、「（イスラエルと）パレスチナ人と交渉を実現させねばならない。……米政府は、なんとかそれを実現させる道を見付けだすよう努力する。現在、その道の途中だが、この問題には、その種の解決策で解決していくことを諦めない」と、記者会見で述べた。

## 二 シャミール政権の政策

まず、基本的立場であるが、これは、前号でも触れたが、リクード－宗教右翼との連立合意文書に明らかにされたように、「入植の拡大と強化」である。そして、PLOとは交渉しない、領土上の譲歩はしない、エルサレムは交渉対象ではないとの立場である。

次に、その基本的立場を実行していく内閣の顔触れを見ると、政権の性格が浮かびあがってくる。

シャミール自身は、反英鬭争で逮捕歴があるが、一回の脱獄経験がある。その後、英、スウェーデンの高官を暗殺したシオニストのテロ組織の高官を暗殺したシオニストのテロ組織の

のパレスチナ代表団提案（領外からと、エルサレムからのパレスチナ人を含む）を拒否した。また、ソ連系ユダヤ人移民が西岸・ガザに入植するのを奨励はしないが、阻止もしないとの立場を明確にもした。

このシャミール書簡に対しても、「ベーカーは、注意深く検討させてもらっている」との談話を発表し、事実上のベーカー案拒否に対しても、國務省の電話番号を知らせたときとはうって変わった反応を示した。また、ブッシュは、「（イスラエルと）パレスチナ人と交渉を実現させねばならない。……米政府は、なんとかそれを実現させる道を見付けだすよう努力する。現在、その道の途中だが、この問題には、その種の解決策で解決していくことを諦めない」と、記者会見で述べた。

ある。八九年以來、アラファト議長の「テロ放棄宣言」を機に米帝がPLOとの対話を開始してきたことがシャミール政権との最大の矛盾であった。とくに、大イスラエル主義の路線をするシャミール政権は、ことあるごとに、PLOは「テロ組織」とのキャンペーンを行って、米帝とPLOとの対話中止を要求し続けてきた。

だが、対イスラエル上陸作戦を非難せず、モハメド・アッバス（通称アブル・アッバース）PLO執行委員を引責解任しないとのPLO執行委員会の立場を口実に、ブッシュが六月二〇日にPLO交渉打ち切りを決定したので、この矛盾は、解消された形になっている。

米帝は、PLOを民族解放主体として承認したうえで対話を始めたわけではなく、逆に、民族解放主體としての性格を抜き去るために、PLO憲章改訂と引き替えに交渉のレベル・アップを計るとのやさぶりをかけていた。これは、パレスチナ蜂起の政治解決の形態をめぐり、とくにパレスチナ人を代表するのが誰かという問題をめぐるものであった。米帝は、「ベーカー案において、カイロでパレスチナイスラエル直接交渉を開催する場合、パレスチナ代表に、領外からとエルサレムからのパレスチナ人を各自一名ずつ入れることを提案していた。シャミール政権は、現在エルサレムを除く領内に居住するパレスチナ人のみを交渉対象とするという点に固執してきた。

第二は、被占領地への入植をめぐる矛盾である。米帝は、ソ連系ユダヤ人移民の対イスラエルを明確にもした。

このシャミール書簡に対しても、「ベーカーは、注意深く検討させてもらっている」との談話を発表し、事実上のベーカー案拒否に対しても、國務省の電話番号を知らせたときとはうって変わった反応を示した。また、ブッシュは、「（イスラエルと）パレスチナ人と交渉を実現させねばならない。……米政府は、なんとかそれを実現させる道を見付けだすよう努力する。現在、その道の途中だが、この問題には、その種の解決策で解決していくことを諦めない」と、記者会見で述べた。

指導者になった。イスラエル「建国」後の経歴としては、五五年から一〇年間は、モサド（イスラエルの諜報機関）活動を行い、七〇年に、リクード党首のベギンに説得されて政界入りした。ベギンに忠実に、国會議長、外相を務めたが、政治的な立場は、ベギン路線とは違った。それは、エジプトとの単独和平条約締結、エジプトへのシナイ返還、パレスチナ人への「自治」を規定したキャンプ・デービッドに反対の立場をとったことに現われていた。そして、八三年、前年のレバノン侵略戦争の責任を負う形で、ベギンが政界から引退した後にリクードの党首となり、労働党との連立政権を二回組んできた。

次は、国防相の地位を要請していたが、住宅・建設相に納まつたシャロンである。これは、アラブからの反発を押さえ、米帝との関係をこれ以上悪化させないための措置と見られている。また、シャロンは、リクードの党首地位をねらい、シャミールが蜂起の「政治的解決」のために出した「選挙」案を否定してきた経過がある。シャロンは、公然とシャミールの指導権に挑戦しているが、入植の強化・拡大では一致している。入植による拡張主義を実行してきた國家であるイスラエルでは、他の国よりも、住宅の流入を見込んでいる分、どこにどれだけ住宅道路を建設するかは、占領・併合・侵略政策展開にとって、特別な意味がある。さらに、新たに移民問題行政委員会を設置しシャロンを委員長に任命したのは、レビで、前住宅相からの横滑りである。シャミール極右政権成立までの三ヶ月の政治空白の期間、エルサレムのキリスト教徒の構造を作りはしたが、被占領地への入植には、反対している（少なくとも、公式には）。なぜなら、米帝は、アラブ側の立場を配慮して、エルサレムの地位はイスラエルの優位性を維持しつつ、キャンプ・デービッド方式で「政治的」に解決していくこうとしているからである。これに対して、シャミール政権は、「イスラエル政府は、事態の重要性を理解するので、ソ連系ユダヤ人をユダヤ、サマリア（編注：西岸）、ガザへ送り込まない」とのシャーロン住宅相の声明を（六月二十四日のユダヤ機関国際代表会議）出すなどして、PLOとの対話を打ち切った米帝への譲歩を示した。だが、入植活動を統括する位置にあるシャロンは、移民・入植の資金保証を行うユダヤ機関に対する、イスラエル内の人口の少ない地域に入植させるなど、ただし、他の人々がどこにも定住できないこと、ただし、他の人々がどこにも定住できないことではない、イスラエル全土での（住宅）建設計画を推進することを強調し、そのための資金活動を活発に行うよう要求した。

この発言自身は、エルサレム以外の被占領地・砂漠地帯、テル・アビブ・エルサレム回廊などの、ただし、他の人々がどこにも定住できないことではない、イスラエル全土での（住宅）建設計画を推進することを強調し、そのための資金活動を活発に行うよう要求した。この発言自身は、エルサレム以外の被占領地への入植活動を押さえ、四八年ライン内の入植活動に集中するという主旨に聞こえる。その限りでは、米帝との矛盾を避けられようとしている。だが、被占領地への入植をめぐっては、米政府は、未だに、住宅ローンの保証を渋つているところに見られるように、矛盾自体が解決されるわけではない。

第三は、それに関連しているが、エルサレムミールからの書簡を受けて、六月二九日に、パレスチナイスラエル交渉を実現させたいとの決議をして、この矛盾は、アラブに対する米帝の立場上、現在も微妙なものとして、解消されていない。

シャミールは、新政権の政策を説明する書簡を、六月二八日にブッシュに送った。その書簡で、中東問題の中心は、アラブ側がイスラエルとの交渉を拒否することであるとし、米政府が、アラブ諸国、とくにシリアに対しても、政策を明確にして、シャミール右翼政権のレビ外相とベーカーとの会談を追求した。

シャミールは、新政権の政策を説明する書簡を、六月二八日にブッシュに送った。その書簡で、中東問題の中心は、アラブ側がイスラエルとの交渉を拒否することであるとし、米政府が、アラブ諸国、とくにシリアに対しても、政策を明確にして、シャミール右翼政権のレビ外相とベーカーとの会談を追求した。

シャミールは、新政権の政策を説明する書簡を、六月二八日にブッシュに送った。その書簡で、中東問題の中心は、アラブ側がイスラエルとの交渉を拒否することであるとし、米政府が、アラブ諸国、とくにシリアに対しても、政策を明確にして、シャミール右翼政権のレビ外相とベーカーとの会談を追求した。

以上の矛盾をめぐり、ブッシュ政権は、シャミールからの書簡を受けて、六月二九日に、パレスチナイスラエル交渉を実現させたいとの決議をして、この矛盾は、アラブに対する米帝の立場上、現在も微妙なものとして、解消されていない。

以下におかれしたことから、エルサレムのユダヤ化・キャンペーンが強化されていくことは明らかである。シャロンは、第二次ベギン内閣の国防相を務め、八二年のレバノン侵略戦争の直接指揮者であり、ペイルートのサブラー・シャティラ・キャンプの虐殺に責任を負う極右である。次に、八二年のレバノン侵略戦争当時、陸軍参謀総長を務め、侵略のもう一人の直接責任者とされるラファイエル・エイタンが、農相に就任した。他の諸国とは違つて、イスラエルの農業省は、入植村建設基金をとるための中心的地位にある。

前外相から現在の国防相に横滑りしたアレンズは、米国仕込みのイスラエル軍需産業のペテランで、本人も航空軍需産業会社を経営している。八三年一八四年には、国防相を務めた経験もある。リクード内部の指導権争いで、シャミールと組んで、対米関係を重視する動きを見せてしまいが、「大イスラエル」構想を実現する戦術上の相違があるので、シャロン、レビ、モダイなどの極右と内容上の相違があるのでない。ラビン前国防相から、蜂起の実力鎮圧政策を引き継いだ。

また、シャミールは、ベギン内閣時代の農相を務め、八五年から副国防相を務めたデケル議員を入植顧問として迎えた。

外相に就任したのはレビで、前住宅相からの横滑りである。シャミール極右政権成立までの三ヶ月の政治空白の期間、エルサレムのキリスト教徒の構造を作りはしたが、被占領地への入植には、反対している（少なくとも、公式には）。なぜなら、米帝は、アラブ側の立場を配慮して、エルサレムの地位はイスラエルの優位性を維持しつつ、キャンプ・デービッド方式で「政治的」に解決していくこうとしているからである。これに対して、シャミール政権は、「イスラエル政府は、事態の重要性を理解するので、ソ連系ユダヤ人をユダヤ、サマリア（編注：西岸）、ガザへ送り込まない」とのシャーロン住宅相の声明を（六月二十四日のユダヤ機関国際代表会議）出すなどして、PLOとの対話を打ち切った米帝への譲歩を示した。だが、入植活動を統括する位置にあるシャロンは、移民・入植の資金保証を行うユダヤ機関に対する、イスラエル内の人口の少ない地域に入植させるなど、ただし、他の人々がどこにも定住できないことではない、イスラエル全土での（住宅）建設計画を推進することを強調し、そのための資金活動を活発に行うよう要求した。

この発言自身は、エルサレム以外の被占領地への入植活動を押さえ、四八年ライン内の入植活動に集中するという主旨に聞こえる。その限りでは、米帝との矛盾を避けられようとしている。だが、被占領地への入植をめぐっては、米政府は、未だに、住宅ローンの保証を渋つているところに見られるように、矛盾自体が解決されるわけではない。

活の圧迫となっていく現状の中で、「和平勢力」としては、減少傾向を示している。

国防相アレンズは、就任直後に西岸を視察した。蜂起の実力解体現状を見て回り、緊縮財政の要求から、これまでの聖域であった国防予算の削減も検討されているという事情を踏まえて、アレンズは、「ナショナル・ガード」なる入植者による自警団の組織を打ち出した。これによって、軍隊、国境守備隊の負担を軽減し、入植者対パレスチナ人という構造を作れば、被占領地の占領問題に新たな体裁を与えることになるからである。つまり、占領軍が出動することは、被占領人民と入植者の対立・紛争を緩和するためとなる。入植者は、イスラエルの領土拡張主義の政策の中では、単に入植して土地に居座るだけでなく、アラブが攻撃していくのに対する前線ポスト（早期警戒、迎撃）の役割も担ってきた。そこで、これまで入植者が武装してきたが、この「ナショナル・ガード」は、入植村のみならず、入植村にとって重要な道路のパトロールもやることになった。

この政策は、入植者とパレスチナ人民の直接対峙を計画したものでしかない。

シャミールは、二〇日に米帝がPLOとの対話打切りを発表してから後、二八日になつて、ブッシュにシャミールが書簡を送った。それは、シャミール極右政権の基本的立場について説明したものだった。先にも触れたように、その書簡において、シャミールは、アラブの側が和平

を拒否しているのが問題で、イスラエルは、シリアとの前提条件抜きの交渉を希望すること、

ペークー提案のパレスチナ－イスラエル直接対話に関するもの、従来の立場を固執するものであつた。つまり、パレスチナ代表団には、領外に追放されたパレスチナ人を認めず、エルサレムからのパレスチナ人も認めないというものである。

根拠としては、追放されたのは、蜂起の活動家や、パレスチナ諸組織の活動家なので、PLOの影響を認めることになるからと、説明された

ことを拒否していなかった。ペークー

は新外相レビを招待する予定を発表している。

結論的に、シャミール極右政権の性格は、挙

込んだ「和平」キャンペーンをはつてくるだろう。

### 三 米帝の戦略の再編と中東政策

米帝は、ソ連が和平、緊張緩和がソ連の和平への積極性によって生まれていると考えているのに対し、力の優位が東欧を解体したところを示す。そして、アフガンでのソ連の影響力の低下、さらに、ユダヤ人「移民」問題で、ソ連がアラブに対する相対的な影響力を失っている。そこで、アフガンでのソ連の影響力を再編しようとしているが、軍事的な存在が不要になったと認識しているわけではない。欧洲レベルでは、歐州のNATO化によって新しい枠組みを作り、帝国主義支配の安定のために、ゴルバチョフ政権を支援していく方向にある。

全般的な軍事戦略において、基本的なこれまでの前方展開戦略、柔軟反応戦略などを維持したことから、これまでと違つてきた1・1戦略を行おうとしている。

そして、中東でも、「地域の安定」にむけ、ガルフでの海軍力展開が要とらえており、

「安定化」を追求している。この「安定化」とは、帝国主義の戦略物資である石油の安定化供給を確保することにある。すなわち、この帝国主義の権益に対立するものと対決していくことを意味している。そのヘゲモニーをとりつゝ、アラブ－イスラエル統合支配を実現していくことを意味している。そのためには、米帝は、対イスラ

エル強硬派のシャミール、リビア、パレスチナ組織

ト教徒地区の聖ヨハネ僧院の建物を他人の名義で借り、そこに入植者を住まわせるなど、エルサレムを集中的にユダヤ化していく路線の土台を築いた。リクード内部では、レビはシャロンと組んでシャミール－アレンズ路線の指導権に挑戦してきた。そして、PLOの上陸作戦を利用して、米帝にPLOとの対話を切りの圧力をかける重要なポストについた。欧洲の新しい枠組みの中でも、ECは、米のイスラエル支援とは一線を画した中東政策を從来通り追求していることに対し、どのように対応していくのかが問われるだろう。

以上の顔触れが、アラブ側、とくに、パレスチナ人は、「大イスラエル主義」内閣、「戦争内閣」と規定し、警戒していく根拠もある。このシャミール極右政権の中では、唯一中道派とされるのは、シャミール本人である。

このシャミール極右政権の政策展開は、どうか？はじめに触れたように、シャミール極右政権誕生直後に、ペークーから厳しく批判された。ペークーとしては、被占領地に関して何らかの「政治解決」を本気で実現させようという意図から批判であつただろう。帝国主義との関係、とりわけ、米帝の支援なくしては、イスラエルの安全保障が実現できないというシオニスト国家の本質上、対米関係は、戦略問題としてある。だが、シャミールは、対米政策の基本を、米－PLO対話の中止においてきたし、これが、六月二〇日に実現したのであつた。

そして、シャミールが、エジプト紙とのイン

タビューで明らかにした、シリアへの交渉の呼びかけである。直接单独交渉をシリアに呼びかけたシリアが、それを受け入れるはずがないというのを、承知したうえであつた。このシリアへの呼びかけは、アラブ強硬派に、イスラエルが交渉を呼びかけたという体裁を作つたことに、狙いがあつた。また、AIN・カラ（リション・レツイオン）の虐殺事件に関して、イスラエル特使の派遣を拒否したうえで、イスラエル国民を保護しようとする動きに対しても、イスラエルが交渉を呼びかけたという形をとつて、政治的には処理した。

実際の入植政策の面では、シャミールは、「ユダヤ、サマリア、ガザへの入植はしない」と宣言する一方、住宅を大量に早期建設する計画を次々と打ち上げた。被占領地への入植はしないというのは、公式の立場で、その狙いは、入植のカンパ活動にむけたものであり、また、米帝への暫定的な譲歩である。だが、月に一万人にも達する規模で流入していくソ連系ユダヤ人部の住宅難はひどく、中流家庭ですら、家賃の便乗値上げに脅かされるようになつていて、ソ連系ユダヤ人「移民」を受け入れる住宅、職が不足し、社会問題に発展してきた。とくに、四八年ライアン内閣の再編を打ち出した。それは、輸出促進の優先の再編を打ち出した。それが、輸出促進のために税制上の恩典を与えた、政府の統制緩和、

また、イスラエル国内の国民感情としては、三ヶ月間の政治空白に対する不満が、選挙制度改革要求として高まつてもいる。リクードと労働党の二大政党が、組閣工作時に、宗教右翼政党がキャスティング・ボードを握る政治構造を否定するものとしてあつた。だが、内実としては、被占領地政策については、何らかの解決が必要だというものではあつても、現在のPLOとの交渉を容認しない立場のものが主流を占めている。それは、シオニストのイデオロギーそのものを否定するものではないし、進歩的な潮流ですから、ソ連系ユダヤ人「移民」の大量流入が生じた。

スライドによるインフレ抑止政策の見直し、緊縮経済などである。この政策は、八二年のレバノン侵略戦争が引き起こしたインフレ、国家財政の破綻を解決するための新保守主義的経済政策を提唱している。それは、公務員の削減、ヒューマン資源の削減、公務員は、この政策によつて生活を困窮する分、激しく抵抗はじめ、公務員の削減され、連続ストがおこつた。とくに、労働党の組織票であるヒスタドルートは、政府に次々大雇用主である赤字企業への政府援助を削減され、転換が問われた。

また、イスラエル国内の国民感情としては、三ヶ月間の政治空白に対する不満が、選挙制度改革要求として高まつてもいる。リクードと労働党の二大政党が、組閣工作時に、宗教右翼政党がキャスティング・ボードを握る政治構造を否定するものとしてあつた。だが、内実としては、被占領地政策については、何らかの解決が必要だというものではあつても、現在のPLOとの交渉を容認しない立場のものが主流を占めている。それは、シオニストのイデオロギーそのものを否定するものではないし、進歩的な潮流ですから、ソ連系ユダヤ人「移民」の大量流入が生じた。

観情勢がイスラエルに有利に変化した分、シャミールのこの書簡に表現されるように、何ら解決されていない。唯一、被占領地には入植しないといふという公約のみが、米帝の顔をたてるものとして出された。米帝は、シャミール書簡を検討すること、また、パレスチナ－イスラエル直接交渉を実現させるとの基本を打ち出し、この行き詰まりを開ける動きを示していない。ペークー

は新外相レビを招待する予定を発表している。

結論的に、シャミール極右政権の性格は、挙

込んだ「和平」キャンペーンをはつてくるだろう。

米帝は、ソ連が和平、緊張緩和がソ連の和平への積極性によって生まれていると考えているのに対し、力の優位が東欧を解体したところを示す。そして、アフガンでのソ連の影響力の低下、さらに、ユダヤ人「移民」問題で、ソ連がアラブに対する相対的な影響力を失っている。そこで、アフガンでのソ連の影響力を再編しようとしているが、軍事的な存在が不要になったと認識しているわけではない。欧洲レベルでは、歐州のNATO化によって新しい枠組みを作り、帝国主義支配の安定のために、ゴルバチョフ政権を支援していく方向にある。

全般的な軍事戦略において、基本的なこれまでの前方展開戦略、柔軟反応戦略などを維持したことから、これまでと違つてきた1・1戦略を行おうとしている。

そして、中東でも、「地域の安定」にむけ、ガルフでの海軍力展開が要とらえており、

「安定化」を追求している。この「安定化」とは、帝国主義の戦略物資である石油の安定化供給を確保することにある。すなわち、この帝国主義の権益に対立するものと対決していくことを意味している。そのためには、米帝は、対イスラ

エル強硬派のシャミール、リビア、パレスチナ組織

などを政治的に包囲し、反テロでアラブ民族解放闘争をからめとろうとしている。その連関で、ブッシュが、PLOとの対話を切りを宣言して以降も、PLOに対して問題の海上作戦の非難とアブル・アッバースのPLO執行委員解任をひき続いて、対話再開の条件として掲げていることをとらえる必要がある。米帝は、「人権」の美名の下に、イスラエルを支援しパレスチナ人の基本的な人権である民族自決権を承認していないのである。

一方では、シャミール極右政権が現在とて実質的な領土拡張政策にも、米帝は反対している。なぜなら、シャミール極右政権のその政策展開では、アラブ側の反発を招き、戦略地域である中東で不安定さが強まることになつていくからである。とりわけ、シャミール極右政権の攻撃的な政策は、モスラム原理主義潮流の勢力拡大を招くことは必須である。これは、米帝のみならず、欧洲の帝国主義諸国も、恐怖するものとしてある。米帝は欧洲の新しい枠組みの「安定化」を最優先させているので、中東で不確定要素が高まるなどを避けようとしている。

四 アラブの統一の意義

以上、見てきたように、中東和平の実現の現段階において、米帝は、イスラエルとの矛盾を抱えている。そして、シャミール「戦争内閣」の誕生と政策展開は、米帝との矛盾を拡大させていく可能性を持っている。とりわけ、シャミール「戦争内閣」は、宗教右翼との連立が、ネックになる実質的な領土拡張政策にも、米帝は反対している。なぜなら、シャミール極右政権のその政策展開では、アラブ側の反発を招き、戦略地域である中東で不安定さが強まることになつていくからである。とりわけ、シャミール極右政権の攻撃的な政策は、モスラム原理主義潮流の勢力拡大を招くことは必須である。これは、米帝のみならず、欧洲の帝国主義諸国も、恐怖するものとしてある。米帝は欧洲の新しい枠組みの「安定化」を最優先させているので、中東で不確定要素が高まるなどを避けようとしている。

を引き込んで、アラブのイニシアチブを取ろうとしており、解決できない事態はつづくだろう。イラクの動きは、その野心とともに、統一を困難にさせる要素となっている。PLO内外のパレスチナ諸組織がシリアとPLOの和解を望んでおり、現実に、対イスラエル前線国として対峙してきたシリアの客観的位置からしても、必要なことであるが、イラクを背景としたアラブ首領の誕生と政策展開は、アラブの統一の矛盾するものになつている。

シャミール「戦争内閣」の危険性に対しても、アラブ民族主義は、パレスチナ建国を含む和平実現のために、統一を作り出すことが問われている。

## シュー・バ作戦（PFLP）

### 資 料

掲げた戦争路線、つまり、武装闘争は戦争の主要形態であるとみなす立場、そして、レジスタンスの立場を実践したものであり、インティファードの掩護射撃をするストーナーを実行したものである。

PFLPの軍事行動は、一日で完了するものではないが、イスラエルが大言壯語し、シオニスト社会における極右の伸張が急速であり、より暴力性を帶びている今日では、とりわけ、その意義が倍加されることになる。また、大量の移民が流入し、パレスチナ人を根絶する陰謀、そして、パレスチナ人を「トランスクファー」する要求が横行しているという現状では、大変重要な意味がある。加えて、「リング・レヴィオン」において、イスラエルがパレスチナ人労働者を虐殺し、虐殺がさらに行われるだるるとの恫喝を繰り返している以上、こうした軍事作戦は緊急に必要とされる。

この意味で、PFLPは、イスラエルに対する対峙の責任を負つ先に担つた。被占領地内のPFLPのグループは、指定された標的を攻撃するよう指令を受けた。五月九日には、一グループは、エルサレム地区のアイン・カレム地区にて、PFLPの戦士たちは、占領軍とシオニストによる対峙の責任を負つ先に担つた。被占領地内のPFLPの戦士たちは、占領軍とシオニストがパレスチナ人民により激しい攻勢をかけていた時に展開されたのである。一方、この軍事作戦の意義は、PFLPが創立当初から

投げ弾を使って、シオニストの軍事パトロールを勇敢に攻撃した。この攻撃は、五月二二日夜九時に貫徹され、多数のシオニスト兵を死傷させた。即座に、救急車が現場に急行し、死傷者を運び去り、ヘリコプターが現場周辺をカバーするなか、多数のイスラエル兵が現場に急行してきた。PFLPの革命家を捜索する敵の作戦官が現場に直行し、翌朝まで続いた捜索の現場指揮をとつたことは、特筆すべきことである。報道官制が敷かれ、数日間の封鎖が行われたにもかかわらず、この作戦はパレスチナ人大衆、とくに被占領地内部のパレスチナ人に積極的な影響を与えた。

さらに、過去数年間で最も偉大な軍事作戦として、PFLPの戦士は、シェーハ山の西部山麓のシオニスト軍とレバノンの裏切り者どもに對して数時間にわたる複雑かつ大規模な攻撃をかけた。この作戦は、敵のパトロール部隊を全滅させ、我々も四人の戦死者を出した。戦死したものは、モハマド・ヘイル・カリファ、オスマン・アリ・アブダッラー、ティシール・ハサハマド、モハマド・ナセル・アル・サイードである。

PFLPは、この英雄的作戦について、多くの声明を発表した。第一の声明は、「パレスチナ労働者グループに対する敵シオニストの虐殺への回答として、また、武装闘争路線について、インティファーダの掩護射撃を貫徹し、殉教者ガッサン・カナファーニ部隊の殉教者ワ

クになる条件を持つているので、シャミールは、米帝に対しても、戦術的な讓歩がしにくい位置にある。

アラブ民族主義、パレスチナ革命にとっては、これまでの旧社会主義諸国からの支援がなくなり、アラブ民族が自らに依拠した再編を行つていい必要性が高まっている。また、米帝とシャミール極右政権の矛盾から、米帝とイスラエルが展望している単独直接交渉の方向すら危ぶまれている現在、包括的和平交渉、すなわち、中東和平国際会議方式による解決を押し出していく条件が生じている。ECは、中東和平に関しても、米帝とは独自の権益がある分、国際会議方式を現在も提案している。また、ソ連の後ろ盾は、交渉における力としては、弱くなつてはいること、米帝のイスラエル支持に搖るぎがないことが、アラブ民族主義が一体となって、対応すべき公正な解決を望めないことから、アラブ側としては、国際会議開催要求を前面に押し出していくだろう。

少なくとも、アラファト議長が追求してきたPLOを介してイスラエルに圧力をかける展開は、PLO・米帝の対話打切り以降、頓挫している。また、アラブ総体から見たとき、単独交渉は有利な結果を生まなかつたことが、エジプトの例からも明らかなので、集団交渉への要求が高まってきた。エジプト、ヨルダンなどが、国際会議を主張しだしているのは、この要求を代言したものととらえることができる。また、反帝民族主義の立場にたつシリアもエジプトとの関係としてもある。その集団交渉が、PLO抜きでアラブ諸国との分裂を利用しながら、PLOの独自性を追求することが困難となつてはいる。PLO自身がアラブ民族主義の一部としてその位置をと組んでシリアと対抗するということが成立しなくなつておらず、PLOとしては、シリアとエジプトとの和解によって、これまでのエジプトと組んでシリアと対抗するということが成立しない。シリアは、パレスチナ人民の代表の一大主体としてはPLOを認めている（PLOから抜けているパレスチナ勢力をも支持している）が、アラファト議長がイスラエルとの直接交渉をめざした展開をしていること、レバノンにおいてイラクとシリアの力に対峙していることは反対してきた。それに対して、シリアは、むしろ、アラブの統一をエジプトと組むことによつて、主導的に作つていこうとしている。アラブの再編で問われる統一の方向に向けたインティファーダをめぐる争いは、いま、イラクのサッダム・フセインがその軍事力と金の力で、PLO

人民参加を促進し、インティファーダを大衆的に浸透させるうえで、国際レベルでインティファーダが焦点にならないように、インティファーダを闇に葬ろうとした敵の策動を敗北させた転換点とみなすことができる。

今や、眞の平和プランは、パレスチナの平和ニシアチブの中にあることを、全世界が確信している。我々は、そのことを強固に堅持するとともに、国際会議の枠組みの中で、PLOを唯一の合法的代表とするのを妨害できないこと、誰がパレスチナ人を代表するべきかについて、イスラエルと結託して汚い手を使つてきた米帝のために、わが人民は犠牲（一〇〇〇人の死者と一万人の負傷者）を払つてきただけではない。PLO以外には、我々の代表は存在しない。

あらゆる場所、集会、村やキャンプでの人民委員会の再建を通して、人民のインティファーダを継続、拡大させ、犠牲的な人民の精神の発展を堅持することに、我々の実践を集中しよう。あらゆる村、市、キャンプ、そして地域に、統一指導部の諸委員会の最終的組織化を果たそう。質量ともに攻撃部隊を支えよう。シオニスト侵略者との対決を強化しよう。統一指導部と大衆の間、インティファーダの創造者と推進者間の協力関係を進化させよう。英雄的なラファハから、勇敢なジェニーに至るあらゆる闘争地区

にわたる敵の拠点への砲撃でこたえた」第一報は、パトロール部隊の全滅であった。敵は、援軍を送り込んできた。さらに、戦闘は現在も継続中で、敵は現場地域を蝕滅しに搜索しようとして砲撃を開始した。これに対して、わが方も、敵の拠点への砲撃でこたえた」第二報は、状況をよりつかんだ詳細なもので、作戦の結果が現在どう進展しているかを明らかにした。PFLPの軍事スポーツマンの発表によると、「南部レバノンのシャバ村とシユーバ村とを結ぶ道路で、敵シオニスト部隊と裏切り者アントワン・ラハドの動きを厳密に観察した後、指令に従い、前出の部隊は自動銃の掃射と、ロケット攻撃で、敵のパトロール部隊を攻撃した。パトロールは全滅させられた。そして、敵は戦場に援軍を送り込んだが、PFLPの殉教者アブ・ファウール部隊が、再度敵を急襲し、人的・物質的な大損害を与えた。さらに、この軍報が届いた現時点でも激戦中である。この作戦は、敵シオニストとの戦闘を継続し、インティファーダの掩護射撃を行い、武装闘争を堅持する我々の路線にそつたものである。アイン・カラで、また、別の場所で、敵シオニストがやった虐殺の犯罪は、パレスチナ人が自由と独立という民族的目標を実現するまで、あらゆる形態の闘争を開拓するのを妨害できないことを、ここに強調する」

敵は、援軍を送り込んできた。さらに、戦闘は現在も継続中で、敵は現場地域を蝕滅しに搜索しようとして砲撃を開始した。これに対して、わが方も、敵の拠点への砲撃でこたえた」第二報は、状況をよりつかんだ詳細なもので、作戦の結果が現在どう進展しているかを明らかにした。PFLPの軍事スポーツマンの発表によると、「南部レバノンのシャバ村とシユーバ村とを結ぶ道路で、敵シオニスト部隊と裏切り者アントワン・ラハドの動きを厳密に観察した後、指令に従い、前出の部隊は自動銃の掃射と、ロケット攻撃で、敵のパトロール部隊を攻撃した。パトロールは全滅させられた。そして、敵は戦場に援軍を送り込んだが、PFLPの殉教者アブ・ファウール部隊が、再度敵を急襲し、人的・物質的な大損害を与えた。さらに、この軍報が届いた現時点でも激戦中である。この作戦は、敵シオニストとの戦闘を継続し、インティファーダの掩護射撃を行い、武装闘争を堅持する我々の路線にそつたものである。アイン・カラで、また、別の場所で、敵シオニストがやった虐殺の犯罪は、パレスチナ人が自由と独立という民族的目標を実現するまで、あらゆる形態の闘争を開拓するのを妨害できないことを、ここに強調する」

一方、パレスチナ革命勢力は、五月二八日に

において、全戦士は老若男女を問わず、自らの活動的役割を改善しよう。人口密集地域とすべての被占領地から占領者を撤退させるとともに、イスラエル侵略軍からパレスチナ人民を保護し、パレスチナ人民の運命と将来を、人民自らが自由に決定することができる条件を準備する道を拓くために、被占領地に、国連非同盟軍を導入することに我々の努力を集中しよう。

パレスチナ人には、アラブの首脳に呼びかける。全般的にパレスチナ労働者に対して、とくに、家族を養うため生活の危険に曝されているガザの労働者に対する緊急援助を増大してほしい。アラブに正義と最終的平和を達成する目的をもつて闘つているPLOの平和ニシアチブを、アラブ・サミットは、支持してほしい。ヨルダンでの場合と同様に、アラブ人民の支持を蓄積するため、また、米の穏健な政策、つまり、陰謀の諸策動を終了させるために、アラブ政府が圧力をかけ、アラブの大衆に向かって要請し続けよう。広範なアラブの大衆に向かって要請し続けよう。ナザレ、オム・ファヘム、ジャイベ、ネゲブ（編注・四八年ライン）のパレスチナ人大衆に呼びかける。インティファーダ、さらに、パレスチナ人民の統一に向けて、民族自決権と民族独立のための人民の闘争の正統な目標実現に向け、連帯行動を続けよう。

パレスチナ人民の統一に向けて、民族自決権と民族独立のための人民の闘争の正統な目標実現に向け、連帯行動を続けよう。

この局面において、我々は、民族自決権を承認する社会主義インターナショナルの決議を評議に對して、緊急、かつ実践的な方法をとるよ

う、呼びかける。

この局面において、我々は、民族自決権を承認する社会主義インターナショナルの決議を評議に對して、緊急、かつ実践的な方法をとるよ

う、呼びかける。

英雄的な皆さん。我々は、勝利に向かって行動しております。皆さんは、勝利に向かって行進しており、我々の正義、大義は、自由と、正義と平和を求める世界中の勢力の目標となつてゐる。同時に、我々の敵は、孤立と混乱に直面している。さらに、決意を固めて闘争の道を前进しよう。皆さんに以下の行動を実行するよう呼びかける。

一、最大限広範で、大衆的参加を基本とする人委員会の再建。諸委員会は、民族独立に加えて統一指導部参加諸党派と民族的人士を代表するものでなければならぬし、あらゆるキヤンプ、村、地区を網羅するものでなければならぬ。

二、継続的に、強力で、かつあらゆる形態で、占領軍に對決しよう。

は、パレスチナの首都であるエルサレムを中心の「マハニ・ヤフーダ」市場を爆発させた。この作戦で、イスラエル警察は、即座に現場を封鎖し、大規模な操作・逮捕キャンペーンを行った。八七人のパレスチナ人が逮捕された。その後、イスラエル警察は、この作戦の事実を認め、バス停でもうひとつ手製爆発物を発見し、解体したと発表した。

PFLPとパレスチナの革命勢力が一週間に内に展開したこうした成功した一連の軍事作戦は、闘争路線を堅持し、軍事支援をも含むあらゆる形態でインティファーダを支援するというPFLP、そしてパレスチナ革命勢力の決意、占領下にある祖国パレスチナの労働者に対する犯罪を勝手気ままにはさせないとすることを敵に知らしめた。

最後に、我々は、占領者が打倒され、自由と独立をかちとるまで、闘争を堅持することを誓う。

**戦死した同志の略歴紹介**

一、オスマン・アリ・アブダッラ  
パレスチナ人。一九七四年、シリア生まれ。  
PFLPへの加盟は、一九八九年五月二一日。  
二、モハマド・ヘイル・カリファ  
パレスチナ人。一九六七年、シリア生まれ。  
PFLPへの加盟は、一九九〇年一月。

①アピール五七号　闘争拡大の呼びかけ  
インティファーダを闘っている皆さん。統一指導部は、五月二〇日をパレスチナ労働者階級の殉教の日とすることを宣言し、全世界の労働組合に対し、わが労働者階級の立場に立つよう呼ぶかける。

皆さん、自らの偉大な自己犠牲と勇敢さによって、敵シオニストを、再び、国際的に孤立させ、非難的目的にして、ヨルダンで、パレスチナ人とヨルダン大衆との人民連帯の精神を自覚させた。さらに、米帝への投降政策と完全隸属とを、暴露した。そして、皆さんのが正義の闘いに、アラブ人民が連帯して最大限結合して来る道をも切り拓いた。

五月二〇日の犯罪と、それにひき続いたファシスト犯罪は、奴らが実行する犯罪的政策の反映である。それはまた、イスラエルを無制限に支持し、その犯罪を隠蔽してしまうことを基本とした米帝の政策の直接的結果である。

五月二〇日の犯罪は、インティファーダへの

### 蜂起民族統一指導部アピール

三、ティシール・ハサハマド  
パレスチナ人。シリア生まれ。娘が一人ある。

四、副官モハマド・ナセル・アル・サイード  
パレスチナ人。一九六三年、シリア生まれ。三人の子供がいる。

ファーレーの活動を強化していくことは、皆さん  
の不退転の立場を強化し勝利への道を縮めるの  
みならず、ファシスト的占領当局をさらに国際  
的に孤立化させ、イスラエル国内レベルでも危  
機を複雑化させ、深めていくことになる。  
そこで、シャミールは、奴流のテロリスト的  
やりかたで、問題の解決を試みているのである。  
過激な人種差別運動や、トランプファー（編注・  
国外追放のこと）を公然と主張する連中、そし  
て、公正な包括的和平に反対する連中と一緒に、  
テロリスト政府を作った。より重要なことは、  
このシャミール政府は、被占領地への新規移民  
の入植を最優先課題として出発していることであ  
る。そうした政治目標を達成しようとする政  
府は、公式、かつ計画化された弾圧とテロに訴  
える以外、他に道がないだろう。  
こうした新しい現実に対し、可能な限り  
あらゆる手段でレジスタンスを強化し、インティ  
ファーダを拡大していくことが要求される。ま  
た、政治的には、敵政府を辞めさせ、その同盟  
者たる米国が敵政府への支持を止めるように、  
パレスチナ平和イニシアチブを堅持しなくこと  
が必要である。

米国は、パレスチナ人民への攻撃的政策を取  
りすぎており、パレスチナ人民の自由と独立に  
とつて均衡のとれた解決策を実現しようとす  
る努力を妨害し続けている。さらに、パレスチナ  
人の権利を拒否し、被占領地内で行われている  
犯罪を隠蔽しようとする策動を続け、最近では、  
国連安保理が、被占領地内の犯罪の調査を行

おうとしたのに対し拒否権を発動した。また、  
パレスチナ米対話を打ち切ることによって、  
PLOを恫喝している。  
以上から、パレスチナ人民に対する敵対を止  
めさせ、世界中の人民と同じようにパレスチナ  
人が自由に、相応に生活する権利を承認させる  
ために、アラブ世界における米の権益を脅かす  
ことが要求される。とくに、米政策を批判し、  
米に対して実際の経済的、政治的措置をとると  
規定した過去のサミット決議の実行が要求され  
る。

我々統一指導部は、バグダッド・サミットが、  
第一に、パレスチナ国に対するユダヤ人移民の  
危険性を指摘し、汎アラブの民族的安全が脅か  
されているかを基準にした对外政策をアラブ諸国が  
がパレスチナ人の権利にどのような態度を取  
っているかを決議したので、これらの点を実行して  
ほしい。統一指導部は、以下を強調する。  
一、PLOとの対話を打ち切るとする米の圧  
力、恫喝への対峙をPLO執行委員会が決定し  
たが、パレスチナ人は誇りをもってこの決定を受け止め、この決定を守る。  
二、アイン・カラ（リショーン・レツィオン）  
の虐殺抗議にむけ、多数の民族主義人士がハン  
ガード・ストライキを行ったが、この有効性に感  
謝し、人民がハンガード・ストライキに入った人々

の活動基盤を拡大し、共同家族連帯計画を発展  
させる活動を開始すること。パレスチナ人労働  
者が不退転の立場を堅持し、家族に相応の生活  
を保証できるように、生産計画や協同組合など  
の事業に財源を保証し、この共同家族連帯計画  
を実行する責任をPLOが負うこと。  
五、シオニスト製品ボイコットを強化し、拡  
大すること。民族主義の立場に立つ商人の皆さ  
んに呼びかける。イスラエル製品を売らないよ  
うにしよう。攻撃部隊の皆さんに呼びかける。  
イスラエル製品、とくに農業產品を売る連中に  
対決する責任を果たしてほしい。

統一指導部は、自由と独立の道を進む皆さん  
の英雄的行動を、誇りにしている。そして、攻  
撃部隊の全員に呼びかける。被占領パレスチナ

立国家の建設に向けた準備段階として、被占領地に、非同盟運動の国際的代表が存在するようになるまで、あらゆる街角、通りで、奴らを追い詰めよう。

三、わが殉教者を思い起こし、毎日、人民のデモを組織すること。民族自決権を断固要求し、敵を一掃することを、確認する。

四、六月五日までは、殉教者への哀悼の意を示すために、黒旗を掲げること。六月五日以後は、黒旗ではなく、パレスチナ国旗を掲げること。

五、労働者のストを成功させるために、統一指導部は、いかなる入植地、または、入植地のプロジェクトでも、決して労働してはならないと発表する。

六、五月二十四日から三一日までの一週間は、占領軍と入植者ギャングどもに対する憤怒の週とみなされる。この期間は、奴らに、可能なかぎり最大の人的、経済的、政治的、精神的打撃を与えるよう。

七、五月二八日は、アラブ・サミット開催を記念し、闘争を拡大する特別な日とする。アラブ首脳が責任を負い、自らの誓約を完全に実行するよう要求し、大衆的なデモ、行進を組織するべきである。さらに、サミットが、パレスチナ民族闘争とPLOの平和イニシアチブを確固たるものにするよう、要求する。

八、五月三一日は、ゴルバチョフーブッシュ会談の開始にあたり、ゼネストの日とする。両

国から出国してはならない。そして、この期間中は、税金、運輸免許証発給の手数料、罰金その他支払い、また、軍法裁判所に出廷したり、民間、軍政当局の指示に従うなどの行為を、絶対に、禁止する。皆さん、イスラエル当局が発する外出禁止令その他の命令に従わないように行するよう、要請する。

一二、六月一〇日までの期間中、パレスチナ者の支援活動、そして、共同家族プログラムを西岸の労働者のストは、六月七日まで貫徹されなければならない。このために、人民の皆さん、およびPLOの諸機関に対し、スト中の労働者に榮光と不滅の生命を！

PLO、民族統一指導部  
パレスチナ国

一九九〇年五月二六日

②アビール五八号 人種差別主義政府との挑戦の呼びかけ  
誉れ高いインティファーダを闘う英雄の皆さん、敵の経済に多大な打撃を与えていた労働者の皆さん、そして、パレスチナ人民のすべての皆さんに、あいさつを送る。

パレスチナ人民の皆さん。現在、パレスチナ人民はどこにいようと、パレスチナの大義、運命、そして、合法的な民族自決の権利、PLOの指導下でパレスチナの民族の地に独立パレスチナ国を建設する権利をパレスチナ内外で要求していることを示している。

敵が弾圧を強化していくのに対し、インティファーダ万歳！

PLO万歳！

PLO、民族統一指導部  
パレスチナ国

—10—

越えるだろうし、公正な和平を実現し、纂奪された権利を回復する闘争の道において、新たな成果を勝ち取るだろう。

我々統一指導部は、国連総長代表がパレスチナへ現地視察に来たことを歓迎するが、国連安保理が、パレスチナを国際的暫定監督の下におく前段として、特別代表団を派遣するよう要求する。また、西欧諸国が、早急に無防備のパレスチナ人民に国際的保護を与えようという立場をとり、一九九一年から、被占領地に対する援助の倍増を予定し和平過程を前進させる動きをとっていることを感謝する。

米政府は、海岸での作戦とテロなどの事実無根の口実で、PLOとの対話停止を決定した。統一指導部は、この行動は、イスラエルに対する陰謀の張本人とも、パレスチナ人に占領を押しつけている奴らがイスラエル政府を牛耳るようになつた。

そこで、統一指導部は、米政府の公式使節によるコットするよう呼びかけた過去の決定を再確認する。そして、パレスチナの輸入業者の皆さんに呼びかける。同時に、米以外の国からの輸入に切り替えるよう調査を開始し、既に輸入した分については米国への新規発注を止めよう。また、全アラブ世界の大衆に呼びかける。パレスチナ国の人民にならない、アラブ市場に米製品

を入りこまざないように、全面的米産品ボイコットを実行する大衆的、政府レベルの委員会を形成しよう。

現場レベルでは、占領下のパレスチナ国において、民族的権力構造を発展させる戦略に沿って、大衆的各専門委員会の樹立に真剣に全員が責任を果たすよう、統一指導部は全パレスチナ人に呼びかける。パレスチナの全党派と、攻撃部隊に呼びかける。これらの大衆的枠組みの設立を鼓舞し、大衆的統一戦線の枠組み内での連携を強め、インティファーダの現場活動に大衆的参加をかちとり、民族的なものにしていく。

闘いのイニシアチブをとろう。この点について、閣僚、または、高官との会見を拒否しよう。また、指導構造を発展させるために、後日発表する予定の他の委員会に加えて、高等司法委員会と、高等指導委員会を統一指導部に設置することを宣言する。

イスラエル・レベルでは、パレスチナ人の政治家の皆さんに呼びかける。ファシスト政府の閣僚、または、高官との会見を拒否しよう。また、パレスチナ製で貯える果物と野菜を含めて、とにかくにエルサレムにおいて、イスラエル産品ボイコットを貫徹する意義を再確認する。そして、イスラエル製品を売る連中に警告し、入植村で労働しないように警告する。

学年末のテストが開始されるが、正しい教育方法にのつとてテストをやるよう呼びかけたガザ民族的教育機関のイニシアチブを、統一指導部は歓迎する。学生高等評議会が西岸でもテストの課程を監督する特別委員会を形成していくことを呼びかける。教育は、敵に対する戦闘にとって、そして敵の諸陰謀を打ち破るために、重要な武器であるから。皆さんのゆるぎない信仰と断固たる意志と行動は、現在の困難を乗り越えてほしい。

実業家と商人の皆さんには、パレスチナ製の製品の品質と価格を点検する種々の委員会を設置しよう。パレスチナ人商人、実業家の税条件を検討し、勧告を出す特別委員会を設置する予定である。また、殉教者のためのゼネストは一日だけである点につき、再度、注意を喚起したい。

攻撃部隊には、礼拝場所や聖地への襲撃、泥棒に抵抗し、大衆の安全と平和を保証し、市民の財産を防衛する保安委員会の設置を要請する。緊急事態以外は、大衆活動を行う際には覆面をつけないよう注意を喚起するとともに、インティファーダの活動は、救急車、赤十字社の車両、また、国際機関の車輌など公用車への投石をしてはならないことを確認する。我々は、占領に對決する闘争に集中し、とくにアル・カリール地区（ヘブロン）でストを打ち立てる闘いを強化しなくてはならない。皆さん、検問所、軍への攻撃を強化しよう。敵の車輌を焼き、敵の財産を破壊し、パレスチナにおける敵の交通を妨

領軍との対決を継続し、ジャバリアやその他のキャンプでやったように占領軍の兵舎を襲おう。皆さん、以下の行動予定に従つてほしい。

六月十四日は、国連における米の拒否権發動に抗議し、米の圧力に抵抗するPLOの闘いへの支持と、米の恫喝を拒否する大衆的怒りの日。

六月一五日は、共同家族連帯を示す日。負傷者、獄中者の家族を訪問しよう。

六月一六日は、商店は夕方七時まで営業しよう。

六月一七日は、パレスチナ人民の威儀と自由を守り、アッカ監獄で絞首刑になったモハメド・サムジューム、アッタ・イッジル、ファド・ヒヤジの三人を記念して、特別の激しい対決の日。

六月一八日は、獄中者が権利獲得闘争を展開しているのに連帯し、特別に激しい対決の日。この日は、赤十字本部の前をデモし、座り込もう。

六月一九日には、パレスチナ内外のパレスチナ人全員は、日々の虐殺攻撃を弾劾して、大衆的デモをする日。

六月二〇日は、アイン・カラ（リション・レイオン）虐殺一月目を記念し、また、すべての殉教者を記念して、かつ、子供の殉教者の毎年の記念日にあたるので、どの家もパレスチナ

デモを行い、教会は鐘を鳴らそう。

六月二二日は、殉教者の魂のために、祈る。デモを行って弾劾し、再開を要求しよう。

六月二三日は、閉鎖されている大学の再開を要求する闘いの日。学生、大学職員は、閉鎖が三ヶ月間延長されたことに抗議し、自分たちの歌を歌おう。

六月二八日は、パレスチナ国首都エルサレム併合を弾劾するゼネストの日。

六月二九日は、エルサレムの日にあたり、エルサレムのアラブとしての性格を確認し、エルサレムのユダヤ化と併合を拒否する我々の意志を示そう。

七月一日は、パレスチナの遺産の日。伝統展示会などを催し、民族衣装をまとめて、民族の伝統舞踏を踊り、パレスチナの歌を歌おう。

アイード・アドハの前日は、皆が買物できるよう、商店は二十四時間営業しよう。また、アイード・アドハの期間中は、商店は夜一〇時までの営業が許可される。

アイード・アドハの最初の日には、殉教者の墓参り、負傷者の見舞いに行かなくてはならない。また、占領軍との対決の日でもある。この日は、パレスチナの旗を掲げ、入植村への道を

閉鎖しよう。商店は、二四時間営業できる。・アイード・アドハの残りの日は、獄中者の家族を訪問し、連帯を表明しなくてはならない。

PLO・民族統一指導部  
一九九〇年六月一三日

③アビール五九号  
パレスチナ被占領地への国際的暫定保護を要求する呼びかけ蜂起する人民の皆さん。自由と独立を実現する皆さん。

インティファーダは、最も重要で危険な段階に達した。敵シオニストどもがファシズムと人種差別主義の素顔をさらけ出している段階においては、革命的規律の有効性について当惑しているのに、我々が平和の旗を掲げ続けることには疑問を持つ人がいるのは、決して不思議ではない。

ファシスト内閣、人種差別内閣の新しい弾圧は強化され、インティファーダの人民的性格を抜き去ろうとする陰謀が何度もあったが、我々は、断固、この人民的性格を堅持した。それは、有力な武器であるから。皆さんのがゆるぎない信仰と断固たる意志と行動は、現在の困難を乗り越えてほしい。

イスラエルの平和勢力の努力を感謝するとともに、この新しい戦争内閣のテロリスト的、人種差別主義的行為に反対し、それを暴露する行動しないよう警告する。

同盟諸国は即座に反応し、イラク、クウェートの資産凍結、イラク、クウェートからの石油の輸入の禁止をもって対応した。さらに、帝国主義同盟諸国は、米帝、英帝などガルフの海軍をクウェート沖に結集させ、軍事的な緊張が一挙に高まった。さらに、クウェートのイラクがつくった政府は、即座にイラクへの「合併」を宣言し、イラクはクウェートを併合した。

このイラクの動きに恐怖したサウジ王政は、アラブ・リーグの首脳会議を待つことなく、米帝への軍の派遣を要請し、米帝は、サウジに五万の兵力を投入した。

また、NATO諸国も派兵を決定し、また、イラクに対する経済封鎖に難色を示していたトルコ政府に圧力をかけ、トルコ政府も、イラクに参加させた。

これに対しても、NATOが支援することを約束し、サウジの米帝軍とあわせて、イラクは、帝国主義の軍事的な包囲下におかれた。さらに、イスラエルも、ヨルダンにイラク軍を入れ、ヨルダンを攻撃すると宣言し、また、ヨルダンに、ホーク地対空ミサイルを集結させた。

アラブ諸国は、こうした帝国主義同盟の動きに対して、アラブ首脳会議を開き、イラクのクウェートからの撤退を要求し、アラブ合同軍を派遣し、サウジを防衛することを決めたが、アラブ諸国は、あいさつを送る。

占領に対する闘いに犠牲を払い、したたかに闘っている皆さん。民間防衛団などの敵の措置、重税攻撃、村への襲撃、エルサレムへの新旅団配属、街道への軍パトロール強化、商業ストを打ち壊すとの噂の流布など、敵はある手この手で、攻撃をかけているので、注意を怠ってはならない。さらに、ユダヤ人移民の危険性について警告し、ソ連共産党中央委員会に対し、この移民間題がパレスチナ人にとっては存在の危機となっていることにつき、注意を喚起する。アラブ諸国の政府に呼びかける。インティファード支持に関するバグダッド・サミット決議を行してほしい。自由と独立に向けた民族的闘争が新段階に入ったことに見合うよう、闘つていくよう呼びかける。

以下の行動予定に従つて、闘おう。

- ・アイード・アドハの期間中は、殉教者の冥福を祈り、大衆的に殉教者の墓に詣で、共同家族連帯の原則にのつとつて、困っている人々を支援しなくてはならない。
- ・七月七日は、獄中者運動の闘いで倒れた殉教者の日。獄中者との家族の皆さんに、統一指導部はあいさつを送る。ナチ収容所であるアン

ラブ諸国は、その口実に「クウェートの革命を祝つて、パレスチナ旗を掲げよう。この革命状況をインティファーダの成果のひとつとして確立するために、道路を閉鎖し、大衆集会を開こう。

- ・七月九日は、モスクから大衆デモを行い、パレスチナ旗を掲げよう。
- ・七月一四日から一九日までは、闘争強化の期間。大衆デモをし、敵軍との対決を強化しよう。
- ・七月二〇日は、ゼネストの日。
- ・七月二十五日は、パレスチナ人の文盲化を策動するイスラエルの政策に抗議して、夜九時から一時十五分まで、電燈を消そう。
- ・七月二九日は、ゼネストの日。

・高校のテスト期間中は、規律を守らねばならない。テスト課程の監督は、学生高等評議会の

ラブ諸国は、その対応は統一を欠いたものになつた。リビア、PLOなどは、米帝の介入に反対すべきとして、決議に反対し、また、イラクの同盟国であるイエメン、ヨルダンは棄権した。シリアは、アラブとして話し合いで解決すべきとの立場をとり、決議に賛成した。シリアは、イラクの侵略時からイラクとの国境、イスラエルとの国境、レバノンで非常警戒体制にはいつていた。

イラクの侵略による事態の発展は、中東情勢に予見を許さない状況を生み出している。しかし、アラブの人民レベルでは、被占領地をはじめとして、ヨルダン、イエメン、リビア、モウリタニアなどの諸国で、米帝の介入を非難し、イラクを支持するデモが行われている。

このイラクの侵略の背景には、イランのつきは、クウェートとすでにいわれていたように、イラクをめぐって対立が、歴史的にあり、とりわけ、クウェートが、帝国主義と同調して、石油価格の引き下げに策動し、イラクなどが要求していた、石油価格を引き上げることに反対して、アラブの人民レベルの支持が高いのは、クウェートがアラブのユダヤ人と呼ばれ、少数の人口で石油による巨額の富を築き、それをアラブに還元せず、米国へ預けているとして、反発をかっていたためである。それが、人民レベルの感情として、イラクが、よくやったという声が高い根拠となつて

いた。そして、米帝の介入は、その感情をさらにも高めることになつていて。

いまだ、サッダムがどのような展望のもとに、この無謀な侵略を行つたのかは、不明であるが、すくなくとも、帝国主義による経済封鎖に耐えることができ、時間がたてば、既成事実となると考えていたのではないかと思われる。しかし、帝国主義は、経済的な制裁だけではなく、軍事的な対応を即座に行つたことで、矛盾は一挙に拡大している。

ソ連は、米帝との外相レベルでのイラクの侵略に対する非難の共同声明を出したが、米帝の軍事的な介入に同調せず、アラブ首脳会議の立場を支持し、また、国連の共同軍として軍を派遣すべきという立場をとっている。

この情勢のなかでもっとも危険なのがイスラエルである。米帝がイラクの侵略の情報が入った直後にイスラエル大使を呼び、イスラエルがこの状況を利用して軍事行動でないよう、釘をさしていることにみられるように、現在のシャミール極右政権は、この状況を利用しても、軍事的な行動にてる危険性が存在している。

イラクの侵略行為は、正当化することはできないが、米帝と日帝を含む帝国主義同盟諸国が、帝国主義の中東での権益の防衛のために、軍事的に中東に介入していることは、より問題の解決を難しくするだけである。アラブがアラブ自身として解決すべき問題である。アラブがアラブ自身の派遣は、長期的なものになるだろう。

害する闘いを強めよう。

UNRWAの人道的役割を讃えるとともに、被占領地でUNRWAが給食センター運営を継続し、これらのセンターで雇用している労働者の職を保証する必要性を強調する。PSF（人間行政民闘争戦線）が七月五日に創立記念日を迎えるので、統一指導部は、あいさつを送る。

赤十字協会に呼びかける。種々の監獄で獄中者に対する家族の訪問を組織する義務を果たしてほしい。国際、アラブの両レベルで、人権擁護の諸委員会に呼びかける。家族との接見といふを強調する。

サールⅢキャンプで屈伏を拒否し、家族との接見禁止の恫喝をものともせず闘つている獄中者を呼んで、民族的立場を堅持する彼らの闘い

者に対する家族の訪問を組織する義務を果たしてほしい。国際、アラブの両レベルで、人権擁護の諸委員会に呼びかける。家族との接見といふを強調する。

パレスチナ国

一九九〇年七月一日

### イラクのクウェート侵略について

責任で行われる。  
我々は勝利する。

PLO・民族統一指導部

一九九〇年七月一日

八月一日イラク政府は、イラク軍をクウェートに送り、クウェートを占領した。これは、前

日に行われていたリヤドでのイラクとクウェートの石油問題をめぐる第一回目の話し合いの決裂の直後に行われた。紛争を話し合いで解決しようとしたアラブ諸国の努力にかかわらず、イラクはクウェートを侵略することで解決しようとした。

イラク政府は、その口実に「クウェートの革命勢力の要請によるもの」というあきらかな嘘をもつて正当化しようとした。そして、メンバーの名前も公表されない「臨時政府」を樹立し、クウェートの王政打倒を宣言した。

さらにイラク軍は、その兵をクウェートとサウジアラビアの国境にある中立地帯へ兵力を集め、サウジへ進攻する構えを見せた。

この事態に対し、アラブ諸国は、シリアが、即アラブ首脳会議開催を呼びかけ、レバノン、チュニスが非難を行つた。エジプトをはじめとする他のアラブ諸国の反応は遅かった。

これに対して、米帝をはじめとする帝国主義

## 重要日誌

一九九〇年六月一日

～七月一〇日

六月一日（月）

- ・アサド大統領、国会開会演説で、イスラエルが実力で領土拡張政策を実行するものと信じると語る。

・イスラエル国会、シャミール内閣信任。

・訪日中のエジプト国務相外務担当ガリ、海部と会談。

・東西ドイツ国会議長、エルサレム訪問。シャミールは、両議長と会見せず。

六月一二日（火）

・イスラエルの国連副代表、国連特使のイスラエル訪問を提案。

六月一三日（水）

・ベーカー、議会の外交委員会で、シャミール批判。

・国連総長、国連特使のイスラエル派遣を発表。

・アルジエリアの地方選挙で原理主義者が圧勝。

六月一八日（月）

・シャミール、アサド大統領に交渉の呼びかけ（カイロの週刊誌との記者会見で）。

六月二〇日（水）

・ブッシュ、PLOとの対話打切りを発表。

六月二一日（木）

・バグダッドで開催されたPLO執行委員会、

「米政府は中東を新しい戦争に押しやつてい

る」と批判。

・アラブ連盟、米-PLO対話打切りに「遺憾の意」表明。

・イスラエル首相官房、「PLOがどのような肯定的役割をも果たせなくなつたこと、現場のパレスチナ人が、交渉対象として登場したこと」を示すとの立場表明。

・イスラエルが、海上作戦非難、海上作戦責任のパレスチナ人が、交渉対象として登場したこと」を示すとの立場表明。

・イスラエルが、海上作戦非難、海上作戦責任のパレスチナ人が、交渉対象として登場したこと」を示すとの立場表明。

六月二四日（日）

・シャロン住宅相、数年内に一〇〇万人の「移民」を受け入れるため、被占領地への入植はしないと発表。

六月二五日（月）

・イスラエル、被占領地での「ナショナル・ガード」（入植者のミリシア）設置を閣議決定。

・ダマスカス放送、一八日のシャミールの交渉提案を「わな」と一蹴。

六月二六日（火）

・ECのダブリン・サミット、被占領地におけるイスラエルによる人権侵害を批判。

・訪米中のエジプト外相、ブッシュとの会談で、PLOとの対話を再開を打診。

六月二八日（木）

・シャミール、ブッシュへ書簡。

六月二九日（金）

・シャミール、アサド大統領に交渉の呼びかけ（カイロの週刊誌との記者会見で）。

七月一日（日）

・ブッシュ、PLOとの対話打切りを発表。

七月四日（水）

・イスラエル蔵相、経済政策発表。

パンフレット発見された。

七月六日（金）

・ブッシュ、PLOとの対話再開条件を提示

（五月三〇日の海上作戦非難、海上作戦責任者の処断）。

七月八日（日）

・イスラエル外務省、ベーカー国務長官の招待をレビ外相が受諾したと発表。

七月九日（月）

・イスラエル国会の丘のふもとに、一三の住宅

・南部レバノンで、ヒズボラーとイスラエル軍、傀儡軍との砲撃戦、その後イスラエルはヒズボラーの拠点を空爆した。

・イスラエル国会の丘のふもとに、一三の住宅

・イスラエル国会の丘のふもとに、一三の住宅

・イスラエル国会、シャミール不信任動議否決（不信任一五一票、反対一六〇票、棄権五票）。

七月一〇日（火）

・原稿が大幅におくれて、発行を遅らせてしまいました。申し訳ありません。中東情勢は、イラクのクウェート侵略で、非常に不安定なものになりました。今後どのように発展するのか予測が難しい状況になっています。遅れたために、イラクのクウェート侵略の概要を加えました。次号を発行するときには、情勢は大きく変わっています。今の時点では海部が中東を回れるのか不明です。日帝の米帝への共同に反対しなければならないと思います。

## 編集後記